

御嵩町ゆかりの芸術家たち

御嵩町では、各分野で優れた芸術家たちが誕生し大正から昭和にかけて活躍しました。

本展では、雑誌の挿絵や本の表紙絵のほか美人画でも有名な「田中比左良」、日本各地を巡り水墨画や俳画を制作した日本画家の「安藤栖阜」、御嵩町無形文化財保持者であった陶芸家の「樋口統三」、地元で教員として働きながら、絵画・彫刻・陶芸など幅広い分野で活躍した「山田隆一」、風景画を中心に描き日本各地や海外でも個展を開いた洋画家の「服部保」の5人の芸術家の作品を、当館所蔵品を中心に最近入手した作品も加えて紹介します。

郷土を愛した御嵩町ゆかりの芸術家たちの感性豊かな作品に触れ、楽しんでいただき、芸術への関心をさらに高めていただければ幸いです。

たなかひさら

田中比左良 (1890～1974)

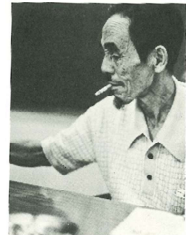
可児郡中村(現在の御嵩町中)に生まれる。24歳の時に上京し「主婦之友」などの雑誌に挿絵や漫画を描き、本の表紙絵も数多く手掛けている。また、しなやかな曲線の「近代モダン」を意識した美人画を多く描いた。昭和43年(1968)、78歳の時に勲四等瑞宝章を受賞。



あんどうせいふ

安藤栖阜 (1899～1981)

可児郡上之郷村(現在の御嵩町美佐野)に生まれる。19歳で名古屋の青木栖古^{せいこ}に師事し、21歳のときに京都の山元春峯^{しゅんきやう}のもとで日本画を学ぶ。晩年は御嵩町次月に画房を開き、町民に日本画を教えた。また、日本各地を巡り水墨画や俳画を制作し、俳画入門書も執筆している。



ひぐちとうぞう

樋口統三 (1901～1976)

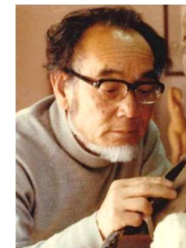
可児郡広見村(現在の可児市広見)に生まれる。15歳にして窯業界に身を投じて以来60年間窯業一筋に生きた。昭和47年(1972)に御嵩町の無形文化財保持者に認定。



やまだりゆういち

山田隆一 (1915～1994)

可児郡伏見村(現在の御嵩町伏見)に生まれる。昭和16年(1941)に教職につき、教鞭を執る傍ら、絵画・彫刻・陶芸など幅広い分野で活躍した。昭和58年(1983)に岐阜県芸術文化活動等特別奨励賞を受賞、昭和60年(1985)には御嵩町功労者表彰(学芸功労)を受賞。



はつとりたもつ

服部保 (1915～1997)

可児郡御嵩町(現在の御嵩町御嵩)に生まれる。18歳の時に京都の関西美術院でデザインを学び、30歳で御嵩に戻り児童に絵を教える傍ら展覧会への出品を続けた。パリ・中国にも渡り、油彩の風景画を中心に多くの作品を制作し、日本各地や海外でも個展を開いた。

